

「29年度アンケート分析」と「30年度に向けて」

※ 「達成されている」、「ほぼ達成されている」を肯定的評価として、「あまり達成されていない」「達成されていない」を否定的評価と捉えての分析

※ 保護者（家庭数）： 630/680 生徒： 691/743 教師： 46/46

1 命の教育の充実

① 充実した学校生活

保護者、生徒、教師（以下、三者）とも、肯定的評価が8割を超えた。反面、否定的評価も保護者、生徒とも1割程度見られた。保護者や生徒からの要望（自由記述）の中に部活動や行事に関するものが複数あった。様々なご意見がある中で、すべての保護者や生徒が納得できるように実施していくことは難しいが、できる限り説明を行ったり合意を図ったりしていく。また、「2 きめ細やかな指導の充実 ⑩ニーズに合ったきめ細やかな指導」にも関連して、ニーズにあった適切な指導・支援をいっそう心がけていく。これらの取り組みを通して、学校生活において充実感を得られるような学校経営を進めていきたい。

② 豊かな心の育成

保護者（9割）の肯定的評価が最も高かった。肯定的評価が最も低く、否定的評価が最も高かったのが生徒（㊦6割、㊧2割）である。教師の肯定的評価は昨年度と比較すると15%程度高くなった。今後は道徳の教科化に対応しながら、すべての教育活動を通して、道徳教育や人権教育を推進し、いっそう自己肯定感や豊かな心を育成していきたい。

③ いじめへの対応

三者とも肯定的評価が9割前後で高かった。昨年度と比較して、教師の肯定的評価が15%程度高くなっている。今後も、日々の生活の中で小さなシグナルを見落とさず、また、「いじめは絶対に許さない」という雰囲気づくりを高めていきたい。さらに、万一、いじめの傾向が見られた場合、迅速に対応し、被害者の人権を全力で守りながら、全校体制で、また、外部機関とも連携しながら適切に解決していきたい。

④ 防災教育

三者の中で、最も厳しい評価をしているのが教員（㊦8割、㊧2割）である。南海トラフ地震、弾道ミサイル等に対する備えについては、学校を含めて社会全体が十分な経験を持ちえておらず、具体的な対応策を模索しているところである。今後、教員の肯定的評価が高まるよう、学校全体で防災教育についての研修を進めていきたい。

2 きめ細やかな指導の充実 ※ 今年度新たに作成した項目

⑤ チームとしての有効な指導

教師（9割）の肯定的評価が生徒や保護者（8割）より1割程度高い。通級指導、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員について、いっそう活用を進めたり、生徒や保護者に周知を図ったりしていきたい。

⑥ ニーズに合ったきめ細やかな指導

教師（8割）と保護者（6割）、生徒（7割）の間で肯定的評価に最大2割もの差があった。冬の防寒対策や髪型等、服装や身だしなみに関する校則の改善や、いっそうの共感的な指導・支援について、保護者や生徒からの要望（自由記述）が複数あった。生徒一人一人の個性や学習状況に応じたきめ細やかな指導について、少人数指導（習熟度別、テーマ別等）のあり方も含めて今後いっそう改善に向けて進めていきたい。

3 基礎学力の定着

⑦ 「わかる」「できる」を実感できる授業

教師（9割）と生徒（7割）、保護者（5割）の間で肯定的評価に最大4割もの差があった。昨年度と比較すると、生徒と教師の評価はほとんど変わっていないが、保護者の肯定的評価が減ったり、否定的な評価が増えたりした。今後、「わかる」「できる」を実感できる授業づくりを学校全体で実現するために様々な研修機会を設定していく。また、授業参観日や学校公開週間の設定を積極的に進め、「わかる」「できる」を実感できる授業を見ていただく機会を増やしていきたい。

⑧ 家庭学習

昨年度と比較すると、三者とも肯定的評価が高く、否定的評価が低くなった。しかし、教師（㊦8割、㊧2割）と保護者、生徒（㊦7割、㊧3割）で肯定的評価、否定的評価とも1割の差が見られた。学習塾に通っている生徒（保護者）とそうでない生徒（保護者）でも回答に差異が見られること、また、生徒の学力によっても、回答が変わってくるように思われる。

⑨ 主体的・対話的な学び

教師（8割）と生徒（7割）、保護者（6割）の間で肯定的評価に最大2割もの差があった。今後、いっそう新学習指導要領の趣旨や方向性を保護者や生徒に周知するとともに、学校体制で主体的・対話的な学びを実現するために様々な研修機会を設定していく。

4 魅力ある学校づくりの推進 ※ ⑫、⑬は保護者のみ回答

⑩ あいさつ

生徒（8割）の肯定的評価が保護者や教師（7割）と比較して1割程度高かった。保護者や教師との評価の機会や基準が異なることが予想される。昨年度と比較すると、生徒と教師については肯定的評価が高くなっている。今後も、学校教育のあらゆる場面で「あいさつ」等を含めたコミュニケーション能力や人間関係構築力を高めていきたい。

⑪ 宿泊行事・キャリア教育講演会

三者とも、肯定的評価が8割～9割だった。逆に否定的評価はほぼ1割程度であった。宿泊行事については、日程や内容等、さらに適切なものとなるように検討していく。また、各分野で活躍されている講師を招聘して「本物に触れる」「生き方を学ぶ」キャリア教育講演会については、知立市「魅力ある学校設計事業」や愛知県「キャリアスクールプロジェクト」等、さまざまな事業とタイアップして引き続き進めていきたい。

⑫ 保護者会・授業参観等

肯定的評価が9割だった。逆に否定的評価は1割程度だった。今後、保護者会や三者懇談等の時期や内容について改善を図りたい。また、授業参観日や学校公開週間についても、「3 基礎学力の定着 ⑦ 「わかる」「できる」を実感できる授業」と関連して、いっそう改善を図っていきたい。

⑬ 情報発信

肯定的評価が9割だった。ホームページの「学校日誌」を毎日更新するなど、積極的な情報発信を進めてきたことが高く評価されたように考えられる。絆メールについては、「もっと細かいことでも頻繁に発信してほしい」という意見と、「もっと情報を精選してほしい」という両方の声をいただいている。今後は、いっそう、迅速かつ、適切な情報発信に心がけたい。